

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	医療社団法人 翔嶺館 グループホーム 健寿館	評価実施年月日	平成19年7月1日
評価実施構成員氏名	田澤和子 中村信幸 森下泰裕		
記録者氏名	森下泰裕	記録年月日	平成19年7月15日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
	○地域密着型サービスとしての理念			
1	地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	一人を大切に。支えあう心。安心して暮らせる社会作り。		
	○理念の共有と日々の取組み			
2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は職員が見える位置に明示し、管理者より事あるごとに説明を日々行っております。職員一人ひとりが理念の意義を理解し日々の介護に取り組んでいます。		
	○家族や地域への理念の浸透			
3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	御家族様・地域の訪問者には管理者よりその内容を説明しています。		地域の訪問者に関しては理念の内容の理解をしていただけるように努めておりますが、御家族様に関しては管理者より時、場面、形を変えて、その内容を理解していただけるように努めています。
2. 地域との支えあい				
	○隣近所とのつきあい			
4	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域の訪問者が少ない為に近隣施設等に出向き、馴染みの関係作りをしております。		散歩や外出を利用し地域住民の方々に積極的に挨拶やホーム案内をしておりますがホーム訪問者は若干のため、隣接のデイサービスの方々と馴染みの関係を作りホームに立ち寄れるように働きかけをしております。
	○地域とのつきあい			
5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	回数は少ないですが、地域との催し物に参加しておりますが、地域の人々との交流まではいたっておりません。		御家族様の協力を得て地域行事等への参加をはじめております。今後も御家族様の協力も得ながら地域の行事等を把握し参加・交流に努めて行きます。
	○事業者の力を活かした地域貢献			
6	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	積極的には取り組みはしていませんが、地域の方の御相談は受けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員共に自己評価・外部評価の見直し改善に取り組んでおります。		自己評価・内部評価を理解しフィードバックしながら具体的改善に取り組んでおります。
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	実施はしていません。		平成19年7月の運営推進会議において自己評価を報告予定です。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	出向いてはおりません。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	すでに取り組む、学習しております。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	職員側では身体的・言動の虐待をしている事はありません。御利用者様が不快に感じることもあるかもしれません。そのようにならないように毎日接しております。		身体面では入浴時には全身の傷・アザ等の観察をしています。御利用者様が虐待と捉われるような言葉遣いせず、職員の言動や態度にも細心の注意をしているつもりです。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明し、理解・納得を得るように説明に努めています。		御家族様等に理解・納得していただいておりますが訪問時には不安、疑問点等が更にないかお尋ねするようにしています。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者、職員に意見・不満・苦情は御利用者様はある程度は表出されていると思われますが、不満・苦情等が出た場合には即対応し改善されるものは改善されています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	御家族様訪問時はお話の機会を持っています。御家族様訪問時ホームに対する要望苦情を伺うようにし、また玄関前にアンケート及び苦情投函の箱を設置しています。		毎月「月だより」及び個人の状況を発刊しております。必要時に応じて健康状態変化時、医師からの診療情報を郵送しています。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者、職員は御家族様よりの意見・不満・苦情があった時には即対応、改善するようにはしております。		重要書類に北海道国民健康保険団体連合会総務部介護保険課企画・苦情係に苦情の相談と苦情の対応及び仕方を廊下等に掲示しています。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々、時間にとらわれずに意見・提案を聞いています。		カンファレンスや会議にとらわれずに管理者は、その場その時において職員の意見・提案に耳を傾けています。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状態の変化に即、対応できるようにしています。		御利用者様の状態変化を予測し事前に業務査定し御利用者様を優先した対応をしています。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	御利用者様・御家族様が負担がかからないようにしています。		馴染みの職員、離職等の欠員が生じた場合、速やかに人員を補充し職員と御利用者様が一日も早く馴染みの環境を構築できるように歩み寄りを大切にしております。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修・講習を段階に応じて行っており案内などは職員が閲覧できるようにしており、参加希望者対しても参加できるように業務面での支援をしております。		申し継ぎ・カンファレンス時に事例を通してながら学習につなげていっています。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	意見・情報交換を計りながら、気づきを多くし質の向上に役立てるようにしています。		他のグループホーム等を見学し参考になる事は取り入れています。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	業務量の多い時は業務査定し業務が過度にならないように調整しています。		業務の悩み・ストレス等生じないよう声かけ、見守りし、いつでも相談・アドバイスが出来るようにしています。時間には退社するようにし、自分の時間を有効に使用できるように配慮しています。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	管理者は申し継ぎ・カンファレンス等、常に各自の向上に努めています。		管理者は目に見える形、そうでない形で職員の努力や実績を把握し評価し、もっとも効果的な場面において激励しています。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	精神的・肉体的不自由さは改善するように努めています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	御家族様の状況及び要望は受けとめています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御家族様や御利用者様のお話を整理・評価し、管理者・職員間でカンファレンスを設け必要としている支援の見極めに努めています。		御家族様に御本人よりの情報はもとより、実際に観察・評価・実行しています。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	不安なく環境に慣れていただく事を優先し、安定されてから御家族様と相談の上で行っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	御利用者様の立場に立ち考えていますが、時に一方的な立場に立ってしまうことがあります。		御利用者様の気持ちや立場をよく理解し「自分だったら」と御利用者様の気持ちになり一つひとつの行動にも根拠を持ち支えていく関係作りに努力して行きます。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	信頼関係を築き、喜怒哀楽を共有できるように努めています。		業務の中では時間は限られており、御家族様との時間を作るには行事等に御参加いただき、その機会を利用し交流を深め支えあう関係を作りたいと思います。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	御本人と御家族様が疎遠にならない様に職員が関わりを出来るだけ持ち訪問等の依頼をしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所以前よりのつながり大切にし、関係が途切れないようにしています。(教会の礼拝など)		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	御利用者様同士の関係を踏まえさりげなく職員が交流の手助けをしています。		御利用者様同士共通して楽しめる行事や話題作りを支援し御利用者様・職員が支えあう心を持つよう交流の中で培っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ご利用中より、遠慮なくお話していただけるような関係に努めております。利用終了に際しても引き続き御家族様がホームに立ち寄れるような関係を続けております。		今後も御利用者様はもとより、御家族様をにも信頼を得るよう努力して行きます。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	短期的なものや長期的なものを問わずに希望や意向に沿うように努力しております。		日常生活の中から御利用者様のいままで歩んでこられた人生を踏まえ、話題や会話を通してその中から理解と把握し表出されない想いを汲み取り、御本人の意向に沿うように努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時には御家族様より御本人の情報を収集し把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの心身状態を常に観察・考慮し、その方に合った一日の過ごし方を支援し、見守りしています。		日々変化する御利用者様の精神と肉体面を総合的に判断しその方の段階に応じた暮らしの調節をしています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	御利用者様の立場に立ち、介護支援専門員から職員へ情報を伝達し、また職員からの情報を収集し、御本人・御家族様への要望・意見を取り入れ看護師の医学的看護面を含め総合的に判断し介護計画を立案しています。		御本人および御家族様に介護計画を立案し説明し同意を得て実行しております。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変化が生じた場合速やかにカンファレンスを設け、介護支援専門員や看護師の意見を求め、その意見にのっとり介護計画を作成しているが、急変の状態時には実践が先になり御家族様や御利用者様の同意が後になることがあります。		速やかに介護計画を作成し、御家族様・御本人に同意を得ていきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や介護の実践は個別に記録し、情報は共有し実践では気づきも多く実行されているが記録に生かされていない部分もあるが計画の見直しはカンファレンス等にて情報確認しながら立案しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	しておりません。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察、消防署は協力体制を取っており、ボランティアは申し込みをしておりますがボランティアはまだ受け入れはしておりません。民生委員に関しても働きかけをしておりますが了承を得ておりません。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	対象となる方がいませんのでしておりません。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	対象となる方がいませんのでしておりません。		
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	支援しています。		ホーム入居以前からの歯科やその他の病院の受診は御家族様と御本人の意向にそって支援しています。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症等にも見識のある医師にいつでも相談・支援を受け、速やかに診断・治療が受けれる体制が整っています。		定期的に月2回の往診・診察があり、医師は御利用者様の状態・状況等を把握されており、24時間医療体制が整っており支援が受けられるようになっています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が常駐しており日常的に健康管理がされています。		健康増進及び予防をし、病状の変化、予測される急変時に対応できるように看護師より常に説明と対応方法を説明されている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時あらかじめ入院期間を定めていただき、できるだけ早期に退院できるよう医師より経過報告をホーム看護師が受けながら、いつでも退院できるように準備を整えています。		御利用者様が入院した時、安心して入院生活が送れるよう管理者は時間の許す限り面会しています。どのような状況下であっても、御本人が退院を強く希望された場合には、早期に退院していただきホームで介護・支援をしていきます。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末のあり方について御家族様には説明していますが、具体的な内容までは至っていません。高齢者の方に早い段階に終末についてお話を伺うのはつらいものがあります。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期のあり方について現状の中で、その人らしく終末を迎えられますよう、看護師としてはいつでも準備対応は出来ますが、職員が肉体的・精神的にも対応しつづけるか課題です。		職員が終末とはどういう意義なのかよく理解し、終末を迎える御利用者様・御家族様が悔いのない最後だったと思えるような支援ができるよう、今後、終末期ケアに向けて職員の知識はもとより精神的・肉体的にも能力を高めていきたいと思います。
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	情報を活用しながら、御家族様・御本人の要望を最優先にし環境の変化に適応できるようにしております。		新しい環境に早く慣れていただくように精神的・肉体的な負担を最小限に配慮しております。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	御本人の生活歴や、これまで過ごしてきた環境等に配慮した言葉遣いや接し方に努めています。		言葉遣いや接し方は接遇の基本をわきまえながら、御利用者様の状況に応じ親しみのある言葉遣いで対応させていただく事もあります。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	御利用者様の状況を把握し、個々のもてる力を最大限に発揮し自分で決定できる介護を施行しています。		表出したものに囚われずに、潜在している事を見極め、常に根拠のある介護に努めています。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	御利用者様の病状の変化等により、職員のペースになってしまっている場合が少なからずあります。		御利用者様の生活のペースを更に把握し、根拠に基づいた介護を遂行しながら、御利用者様を優先し、その人らしい個々の空間を満足を得るよう努めています。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎日の洋服は御本人の意向に沿えるように選択するのを手伝っています。理容に関しては出張サービスを活用しヘアスタイルは御本人が決めれるようにアドバイス等を行っています。		身だしなみ・おしゃれ等は日常的に支援し、美に対し無関心にならないようできる範囲内で、特に外出時は化粧・おしゃれをし、気分の高揚に努めております。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日ではありませんが男女問わずに職員と一緒に、個々に合った作業をし食に対し興味を持っていただけるよう、出来る方には参加していただいています。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	原則として禁止しています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	御本人の排泄パターンを観察・把握し失敗やオムツを最小限にトイレで排泄するよう働きかけています。		可能な限り自力での排泄を目標とし、排泄パターン・表情・行動等のサインを見逃さないようにし、トイレ誘導、声かけを促しています。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	なるべく希望を取り入れています。		入浴前に御利用者様の体調の良い状況を観察・確認しながら、個々のお好みの湯の温度や入浴時間の希望をとりいれ、時にはリラックスできるように音楽を流すようにしています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の体調や状況を考慮し適時、休息・午睡を摂っていただいています。		就寝前には入眠できるよう環境(光、騒音、ホットミルク)を整え、また午睡のとり過ぎで夜間が不眠にならないように、日中、レクリエーションや軽運動を取り入れ適度な疲労で夜間の安眠ができるように配慮しています。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の生活歴を考慮しながら得手・不得手を把握し料理・園芸などに職員と共にしています。		主に料理・園芸をしていただいておりますが、個々の楽しみごとの時間を積極的にとり入れていきます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんどの御利用者様はお金の管理はできず、所持や管理はしていません。		買物時はホームのお金を渡し個人に買物をしていただいています。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの希望には副うことはできませんが、外出時には必ず全員で参加するようにしています。		外出時は全員参加をモットーとしております。芸能鑑賞や花見等は行っておりますが、前半期、外食の予定もしておりましたが体調のすぐれない御利用者様もおり実施することができませんでした。後半期には外食の機会を取り入れていきます。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	普段の生活の中で御利用者様の行きたい場所を探し、それに添えるように外出しています。		芸能鑑賞や地域行事などに参加しています。また、都度、御家族様にも案内をさせていただき御家族様の協力をいただいて御一緒に参加できるように機会を多くしていきたい思います。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	御利用者様の御希望があれば手紙や電話はできるようにしてあります。		手紙などは御本人が読むことが困難な方に関しては職員が読んでさしあげたり、解りやすく伝わりやすいように工夫しております。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	御家族様や御友人が来館の際には気軽に、ゆっくりと面会の時間を過ごせるように配慮しております。		訪問者と御利用者様がゆっくりと時間を過ごせる様に整えております。
(4)安心と安全を支える支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は一切しておりませんが、転倒予防のベッド柵・車椅子や椅子からのずり落ち防止の腰ベルトは同意を得ておりますが、現時点までは一度も使用せずに対応しています。		どんな状況下においても身体拘束を禁止しております。ただし、ベッド柵・車椅子の腰ベルトを使用することもあるかと思いますが原則として禁止としております。使用する場合はカンファレンスを持ち、分析し施行する状況もありあえます。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	施錠はせずに、扉が開いた際にはいち早く察知できるような工夫をしております。		御利用者様が不快にならないような方法として、扉に鈴をつけて日常生活に違和感がないように扉が開いたことが分るようにしております。
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ホームの構造上、廊下の目の届かない範囲にカメラを設置し死角のないようにし、事前に危険を察知できる体制を整えております。		カメラにとらわれず、個々の状況や状態に応じ頻回に見回り・訪室を多くし安全を確保しています。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	尖っているものや刃物は職員が管理し、使用前後の定数の確認、保管をしております。		御利用者様の個々の状態を把握し、その方の現状に合った物品の管理・保管をしていただいております。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	毎日の申し継ぎや、カンファレンス時に現状にあった事例を出し、また転倒や窒息の危険性の高い御利用者様に関しては、具体的な内容で対応についての説明を行っています。また、職員においても急変・事故はいつでも起こるものだという危機感を持つようにしております。		行方不明時の対応マニュアル作成、関係機関に配布する為の御利用者様個人の特徴や写真を記載した個人票の作成、火災時の連絡・非難マニュアルを作成するなど各事態に対応できる準備をしております。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを熟読するに終わらずに、日々変化する御利用者様の個別の状態を管理者兼看護師より具体例を挙げて説明をして、シミュレーションもしております。また職員の意識下にも急変や事故が常に起こるだろう危機感を持っております。		書物やマニュアルの知識に終わらずに、管理者兼看護師からの現在御利用者様が起こりえる急変や事故の事例を交えての対応に関してのカンファレンスを日々行っております。更に抜き打ち的に事故対応を訓練しております。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	建物の構造を理解したうえで火災・災害発生時の非難方法を独自のマニュアルを作成し、職員間で熟読しシミュレーションしております。また、年2回の消防訓練を実施しております。		近接の病院との合同火災訓練に参加をし、また避難マニュアルを防火管理者が作成し、避難誘導について他者でも一目で解るように自室の表れに担送・護送・独歩の色別しており、災害時の対応に備えております。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時は管理者よりリスクに関して詳細な説明を行っている。また入居後も御家族様が来館の際には管理者より現時点のリスクの説明をしております。		必要時や状況の変化に合わせて、その都度、管理者より御家族様への説明の時間を設けており、了解・同意を得ております。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの病状や体調変化の早期発見に努め、発見時には早急に対応できている。		病状や体調の変化を予測してケアにあたっております。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報は常に職員が閲覧できる場所に整理整頓されております。御利用者様の薬が変更になった際はかならず内容を確認し情報として記録をしてあります。		職員が薬の効用や副作用を理解するように日々のカンファレンスを通して説明をしております。また、薬の出し入れ・手渡し・服用の際に職員が3度のチェックを行い、誤薬が起きないように徹底しております。薬の変更時にはかならず御本人の容態や体調の変化を細かく観察しております。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	日常より自然排便を心掛けており、食事や水分で排便がスムーズに行えるようし、排便の習慣化に努めています。また個人の排泄パターンを観察・把握し薬に頼らない排便ができるように心掛けております。		日常の中での運動を取り入れ機能低下を防止し、排便が見られない時は水分量のアップや腹部のマッサージ、肛門のウォッシュレットによる刺激、及び肛門マッサージを行うなど、自然排便が出来るようにしております。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後必ず見守りと全介助にて口腔ケアを行い口腔内の状態を把握しています。		可能な限り御利用者様の持てる力で口腔ケアをしていただいております。また口腔内を清潔に保つ重要性を職員は学習し理解しております。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食材及び栄養管理されたものの提供しております。食事・水分量が一目で分る表を活用し、個人の食事や水分の摂取量を把握しております。また、気候や気温、御本人の体調を考慮し、看護師の助言も加味し水分量の増減も行っております。		食事に関しては、栄養士により管理されており、御本人の食べやすい形状や配置をし、また視覚からの食欲を刺激し、可能な限り自分で召し上がられるように工夫しております。水分においても個人々々の目標量の目安を設定し、温度や量、飲みやすい工夫をし目標に近づくようにしております。また、下痢や散歩後などは脱水症状にならないように注意しております。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防・対応を実行している。		御利用者様は日常的に手洗い及びうがいを励行しております。汚染物の取り扱いには、必ずゴム手袋を着用し所定の場所に隔離・廃棄しております。入浴後は白癬症予防のために乾燥を徹底しております。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	春夏秋冬を通じて食中毒予防対策を行っております。		まな板、包丁、布巾を薬剤消毒・日光消毒を施し、冷蔵庫内は温度管理をし薬剤にて拭き掃除は毎日行い、また週に一度は徹底的に行い、食材の整頓もしております。また、下痢、傷や化膿がある人は調理に関わる事を厳禁とし、感染予防をしています。食中毒警報の知らせに必ず目を通すなど職員の意識も徹底しております。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前に手作りの看板を掲げたりしてはいるが親しみやすさにはかけています。		特に玄関周りは夏季是水まきや掃除を行い、冬季は雪かきをこまめに行うなどして来館者に不快な印象を与えないように工夫し配慮しております。親しみやすい看板をかけれないために玄関先には植木も植樹し、少しずつ外観を整えつつあります。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	絵画や植物、御利用者様が制作した作品などを置き、親しみやすいように気を配り、家庭と同じ環境や雰囲気をつくり、居心地よく過ごしていただけるようにしております。		病院を改築した建物のために構造的には家庭的ではないが、植物や絵画、手作りの表札を掲げたりし、一般家庭に近づく努力をしています。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	談話コーナーを設けており、いつでも御利用者様が寛げるような環境整備をし、また、廊下にはソファを設置し御本人の体調に考慮し休憩できるような場所も確保しています。		共同空間を積極的に活用し、数箇所にてテーブルやソファを設置しております。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前には御家族様との話し合いを設け、御利用者様が使い慣れ親しんだ家具や食器を持ってきたりできるように説明させていただいております。		寝具や家具、食器は御本人が慣れ親しんだもの、又、思い出がこもった物をお使いになられて配置しております。職員も物の大切さを認識し丁寧に取り扱いをし、日常会話の中でその思い出の話題を組み入れながら過ごさせていただいております。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ホーム内外を問わず、衛生・環境の整理を毎日施行しています。		毎日定期的に換気と湿度・温度等の環境整備を整えています。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	日常生活の中で身体能力を評価しながら、個々が自立した生活が送れるように施行している。		日常生活の中で運動機能の向上を目指しながら個々の能力に応じて安全面を考慮し、ホーム内の環境等の整備・工夫をしています。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	毎日、個々の情報を交換をしながら気づきを多くし、表情・言動・行動及び行為を詳細に観察し、混乱や失敗を生じないようにあらかじめ対処しています。		御利用者様との会話を多くとり、また現状において「出来る事」と「出来ない事」の見極めをし、出来ない事は工夫しながら自立した生活へと働きかけています。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダに菜園や花壇を作りその中でランチやティータイムなど、景色や音楽、外気浴を考慮しながら気分転換を計り楽しんでおります。		菜園の手入れや水やりをして生育を楽しみ、又、毎日の洗濯物干しと外気浴を取り入れADL向上につながる様に心掛けながら行っています。季節に応じバーベキュー、焼き芋、夏祭りの一環として居酒屋風に炉端焼きも盛大に行っております。

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

- ・健康管理と病状の安定。急変時に早急な対応が出来る。
- ・日常生活動作の中で身体機能向上を目指しています。